

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」

採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	山形短期大学	整理番号	2-2-019
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	実習を核とした総合的カリキュラムの構築		
申請単位	学科単位		
申請担当者	水野 則子		
<p>(取組の概要)</p> <p>本取組は学生の学習意欲、保育者としての高度な専門性や実践力を向上させるため、幼児教育科全体で試みた教育改革・意識改革を伴ったカリキュラム構築とその実践である。</p> <p>学生にとって、学習内容を関連させて総合的な視点から保育をすることは困難であった。そこで各科目の内容を相互に関連させると同時に、保育の総合化を具体的に示した授業を展開するカリキュラムを構築する必要性があった。平成 9 年度より実習内容研究、平成 10 年度より基礎演習、平成 15 年度より総合演習のプロジェクトを立ち上げ、実習を核とした総合的なカリキュラムの構築をめざした。プロジェクトの成否は担当教員の意識改革と協力体制によるという認識から、すべてのプロジェクトはチーム・ティーチング方式で授業を運営することにした。</p> <p>その結果、授業や実習に対する学生の意欲や理解度が向上し、授業内容を保育現場で応用する能力が飛躍的に高まるとともに、教員間の連携や相互学習、学科全体としての教育力が大きく向上した。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、山形短期大学幼児教育科の教育目標である「敬・愛・信の理念にもとづき人間性豊かで、しかも真に地域社会に貢献できる実践的な人間の育成」を達成するために、平成 9 年より 7 年間にわたって総合保育の重要性を強調して組織的に実施され、総合保育の実習を核としたカリキュラム編成や、教員のチーム・ティーチングの採用に実証されるように、大きな成果を上げてきています。</p> <p>現在、大学には、社会・経済構造、産業構造の急激な変化に対応できる特色ある教育が求められており、この取組の 2 年間の教育内容を実習の核とした総合的カリキュラムを 5 つの群に分けて、効率かつ体系的に学習できるように配置し教育効果を挙げようという点は、こうした社会の多様な要請に充分応える優れた取組であると認められます。特に、現在 1 2 科目を運営するまでになったチーム・ティーチング方式については、先進性も見られ、授業の方法もシステムの、学生の満足度も高く、今後、教員の意識と教育力の向上が求められつつあることを鑑みれば、この取組は、他の短期大学の参考になり得る優れた</p>			

事例であると言えます。

また、この取組には、取組の有効性の評価手法や学生の更なる能力向上をどのように推し進めるかなど、いくつかの課題も認められますが、これを克服すれば更なる発展が期待されます。